

発言No.

15

受付No. 1

令和6年11月17日

9時36分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 10番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者

(○をつける)

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 集落機能強化加算について

- ① 第6期中山間地等直接支払制度の見直しで、集落機能強化加算が廃止された。この加算の内容は、中山間地域に暮らす市民の、コミュニティーサロンの開設や買い物支援、高齢者の見守りや送迎などの支援等であるが、市への影響について伺う。

- ② 今後の対策について考えを伺う。

(2) 新規担い手の離農について

- ① 理想と現実のギャップに悩み、新規就農を諦める若者が後を絶たないと聞く。移住者と、受け入れ側の意識の隔たりを縮めることが、定着には欠かせないと感じるが、市の状況を伺う。

- ② 今後の対策について考えを伺う。

(3) スマート農業について

- ① スマート農業技術活用促進法が今年10月から施行された。省力化や生産性向上に役立つ先端技術を導入する農家に対し融資や税制面の支援、産地ぐるみでの機械導入を後押しすると聞く。農業は人口減少、高齢化等により働き手が減少する中、先端技術をどう生かすべきかが重要課題と感じるが、市の考えを伺う。

(4) 地域支援型農業について

- ① 消費者が事前に農産物の購入を約束することで農業を支える「地域支援型農業

(GSA)」が注目され、消費者との接点をどのようにつくるかが成功の鍵と聞く。
新たな取り組みとして、地域農業の発展に繋がると感じるが、市の考えを伺う。

(5) 生きもの調査について

- ① 今年7月に、弥栄の水田において弥栄小学校の児童と地域の生産者による「田んぼの生き物調査」が実施されている。生きもの調査は、児童全員が田んぼに入り、積極的に生物に触れ興味をもって調査したと聞き、環境教育にも繋がると感じた。生きもの調査については、昨年一般質問しており、前向きな答弁であったが、市内の他の学校において水田や河川で「生きもの調査」が実施されているか伺う。
- ② 今回の調査は、西日本農研機構の研究員が現地で指導し、機構の調査マニュアルに沿って実施されており、多くの水生生物の確認や絶滅危惧種の植物も発見された。農業が与える生物への影響や自然環境保全の重要性を学び考える貴重な学習になったと聞いている。今回のような、専門家を招聘して、レベルの高い自然環境学習が重要と感じるが、市内の他の学校で実施が可能か、市の考えを伺う。

2 環境省・自然共生サイトの認定について

- ① 環境省が、生物多様性の保全に貢献する場所「自然共生サイト」に認定する仕組みを設けており、全国44都道府県で253ヶ所が認定されている。残る3県は、認定されておらず、その中に島根県が入っている。認定基準は、生物多様性の価値に関する基準等で、本市の中山間地域においては、認定候補地となる地域はあると感じる。島根県初の認定地域になるように浜田市が取り組みを考えてみてはどうかと感じるが、市の考えを伺う。

3 障がい者の休日活動の送迎について

- ① 障がい者が休日を過ごす場所（日中一時預り事業所等）への移動について、浜田市では事業者が送迎対応をすることができないため、障がい者の保護者が送迎をしているが、中山間地域においてはとても厳しいことだとの声を聞いている。島根県内では、すでに日中一時預り事業所が独自に送迎できるよう、送迎加算対応をしている地域がある。市も送迎加算対応するべきと昨年一般質問をしており、検討するとの答弁であったが、その後、市の考えを伺う。

発言No. 16

受付No. 6

令和6年11月20日

14時18分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 18番

氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 市民生活支援について

(1) 生活困窮者支援について

- ① 浜田市の生活困窮者の相談件数について伺う。
- ② 浜田市の生活困窮者支援の状況について伺う。
- ③ 生活困窮者支援事業の委託先への情報提供や連携について伺う。
- ④ 滋賀県野洲市の取組みから、生活が困難で回復の見込みがない市民には「徴収の停止や債権の放棄」ができるようにするなど、滞納をSOSと捉え、自ら相談できない生活困窮者を市側から発見し、相談者に寄り添いながら、生活再建に向けた取組みが検討できないか所見を伺う。
- ⑤ 野洲市の取組みから、消費者被害の防止のための、訪問販売業者に対する登録制度について所見を伺う。
- ⑥ 野洲市の取組みから、関係機関による「消費者安全確保地域協議会」の設置により、見守りリストを作成した実用的な見守りや、協定した事業者から情報提供してもらう「見守りネットワーク」の取組みについて所見を伺う。
- ⑦ 令和3年から重層的支援体制整備事業（国の事業）の取組みが推進されているが、相談支援の多機関協働事業の、縦割りではなく市全体で情報を共有しながら相談対応する体制整備について、浜田市の取組状況を伺う。

(2) ひきこもり支援について

- ① 浜田市のひきこもりの相談件数について伺う。
- ② 浜田市のひきこもり支援の直近の状況について伺う。
- ③ ひきこもり支援事業の委託先への情報提供や連携について伺う。
- ④ ひきこもり支援については「ひきこもり」は地域社会の問題と、まずは情報発信していくことが重要と思うが所見を伺う。
- ⑤ 野洲市は、ひきこもりを防ぐために、滋賀県と児童生徒の健全育成に係わる連携協定を結び、高校生の不登校などの情報をもらい、支援を行っている。高校に入っても生徒の社会的自立に向け、重要な取組みであり、浜田市での不登校対策として検討すべきと思うが所見を伺う。

2. 選挙投票の支援について

- ① 近年の無効票の状況について所見を伺う。
- ② 投票行為が困難と思われる市民の動向をどのように感じているのか伺う。
- ③ 近年、高齢者や障がい者の投票をサポートする仕組みが大変多くの自治体で導入されていると認識する。

特に、投票所で手助けしてほしい内容を記入する「投票支援カード」と、困っている事を指さしでつたえる「コミュニケーションボード」の設置が多くの自治体で行われている。

少しでも無効票を少なくし、投票しやすい環境をつくるために当市でもぜひとも導入すべきと思いますが所見を伺う。

3. 学校給食費の負担軽減について

- ① 学校給食の無償化については、国の支援の在り方について全国で調査が行われてきたようだが、その結果や今後の動向について所見を伺う。
- ② 浜田市での学校給食費の無償化や負担軽減の取組みについて所見を伺う。

発言No.

17

受付No.

13

令和 6年 11月 22日

9 時 34 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 20 番

氏名 西 田 清 久

答弁を求める者

☒ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 浜田中心市街地のグランドデザイン（未来像）について

① 浜田駅前周辺においては、三桜酒蔵跡地、NTT社宅跡地等、土地開発公社で購入した土地や、駅前大型空き店舗の活用、またホテルのリニューアルや、君市踏切の改良などここ数年の駅周辺の動きは、市民の注目が集まる。今年のはまだ市民一日議会でも若い人達の意見を取り入れたまちづくりをして欲しいと発言があったところである。

駅北とのアクセスも良くなることから、老若男女の人流と滞在がさらに効果を発揮するために『活性化グランドデザイン』を作成し市民に示すことが重要と考えるが、市長の所見を問う。

2 フットパスの推進について

① フットパスとはイギリスを発祥とする「歩くことを楽しむための道」のことで、古い街並みや田園地帯、森林など地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことが出来る小径のことで、近年日本においても様々な地域において各々の特徴を活かした魅力的なフットパスが整備されてきている。

浜田市に於いても各々の地域の歴史や営み、生活スタイルなどコースマップを作成してイベントや市民の余暇活動を推進してはどうか所見を問う。

3 折居駅の活用について

① はまだ市民一日議会で若い市民からの提案があった。折居駅は今年で100周年を迎えたが、駅舎の老朽化などを理由に解体される可能性がある。折居駅の様々な特徴から市民、地域住民で駅舎の活用策を考えているが、JRは一般市民への譲渡は難しく、浜田市への譲渡なら可能とのことで、この市民からの意見に対する浜田市の見解を問う。

4 中山間地域（里山）の魅力の再確認と生かし方について

① 中山間地域（里山）は古から様々な産業や人々の営みが行われてきた。里山の文化も築かれ、計り知れない資源が存在していると思う。市長が考えられる里山の資源（魅力）について問う。

② 人口減少と高齢化によって里山は耕作放棄地の増加などで荒廃が進む中、米や野菜、果樹などの価格は上がっているように思う。担い手次第では耕作地復活のチャンスにも捉えられる。

過去に話題となった旧弥栄村の定住住宅と農地と仕事（農林商工サービス業）の3点セットで浜田への移住を推進してはどうか問う。

③ 人口減少と高齢化によって集落の主体性（地域力）も衰退に向かっている。長野県飯綱町が制定している「集落振興支援基本条例」を参考に浜田市集落支援制度が制定できないか問う。

発言No.

18

受付No. 15

令和 6 年(11月22日

9 時 44 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 2 番

氏名 村 木 勝 也

答弁を求める者

(○をつける)

☐市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 令和 5 年度浜田市地域防災計画の見直しについて

(1) 救助活動の効率化・円滑化のための安否不明者の氏名等公表について

- ① 氏名等公表について、浜田市ではどのような一連の手続き等の整理をしているのか伺う。
- ② 6 月の浜田市総合防災訓練において、安否確認における情報をどのように処理されたのか伺う。
- ③ 氏名等公表における課題を伺う。

(2) 地区防災計画を地域防災計画に位置付けるための必要な修正について

- ① 地区防災計画の素案を浜田市防災会議に提案でき、当該地区防災計画を浜田市地域防災計画に定める。とあるが、どういった効果なのかを伺う。
- ② 浜田市における地区防災計画の作成支援と促進はどのように進めていくのか伺う。
- ③ 浜田市における市民等が作成した地区防災計画の見直しについて、どのような支援をお考えか伺う。

2 市民への情報伝達手段の強化・充実について

(1) 次期防災情報システムについて

- ① 現在の進捗状況を伺う。
- ② 防災行政無線の発信とあわせて、既存の防災防犯メール・SNS・アプリ等による一括自動配信するシステムの他に、河川の水位等を把握するセンサー、被害情報を収集・共有するクラウドなどのシステム、更には被災者情報の収集・管理システム等の構築は検討されたのか伺う。
- ③ 令和 5 年 10 月に浜田市議会福祉環境委員会が提言した「就労支援を含めた障がい者支援について」の障がい者に配慮した発信の検討について伺う。

(2) 浜田市地域情報化推進計画の進捗管理について

- ① 防災情報の取得におけるデジタル利活用者の増加促進の効果を伺う。
- ② 公衆無線 LAN の活用促進における指定緊急避難場所、指定避難所、福祉避難所の Wi-Fi 設置状況を伺う。

3 災害応急活動体制の整備について

(1) 地震を想定した防災訓練の必要性について

- ① 本年 1 月 1 日に発生した「令和 6 年能登半島地震」の被害を教訓とした浜田市の対応を伺う。
- ② 本年 8 月 8 日に気象庁が発表した「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」に対する浜田市の対応を伺う。
- ③ 11 月と 12 月に行われる浜田地域、三隅地域での訓練内容を伺う。

(2) 避難所の運営について

- ① 現在の災害時における避難所の運営を伺う。
- ② 避難所運営に係る訓練や研修会の開催状況を伺う。

発言No. 19

受付No. 5

令和6年11月20日

13時52分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 公園整備について

(1) 浜田市身近な公園整備基本方針について

① 令和5年3月に策定された浜田市身近な公園整備基本方針では、公園・広場 97 箇所、公共施設 33 箇所とあるが、新設を含めた直近の数字と今後の計画を伺う。

② 公園・広場 97 箇所の所管課と、公園管理（直営、指定）についてそのポイントや基準を伺う。

(2) 浜田市の花と言えば「つつじ」、「つつじ」と言えば三隅公園について

① 三隅公園は「つつじ」が見頃の時期に合わせて、「つつじ祭り」などのイベントを企画・運営し、地域の観光振興に貢献している。観光資源の魅力として管理が行き届いた公園は「一度行ってみたい」と思わせる魅力を持ち、観光客にも良い印象を与え、地域全体のイメージアップにつながり、特に「つつじの名所」のように季節ごとに見どころがある場合、管理の良さがリピーターを生むきっかけになるが、多面的な役割を持つ三隅公園について市長のご所見を伺う。

② 浜田市の観光大使、山崎ていじさんの「浜田ふるさと祭唄」の2番歌詞にある「浜田はつつじの花どころ 見渡す限り咲き乱れ 色とりどりの艶やかさ 梅も桜も舌を巻く～これぞ浜田の花まつり」と歌で浜田を元気にしていただいているが、そのご本人や地元の方から「つつじ」の艶やかさが年々薄くなってきている、一部花が咲かない部分や鳥獣被害もあるようなので、手当てをするよう要望があった。行政はそのことについてどう認識されているのか伺う。

③ 三隅公園の5万本ともいわれる「つつじ」の剪定や植樹は年次計画的に行われているのか伺う。

④ つつじの開花状況やイベント情報を市のホームページやSNSで発信しているのか伺う。

⑤ つつじや地域の自然環境についての看板や案内表示（観光サイン）の設置など、既存分の更新を含めた取組みについて伺う。

2 磯焼けの現状と対策について

毎年、海水浴シーズンになると畳ヶ浦や隣接している金周布の海岸に孫達と出かけているが、近年海藻で覆われていた磯が磯焼けして、砂とウニだらけになってきている。魚の漁獲量も心配だが、磯も心配である。

- ① 浜田の磯焼けの現状を伺う。
- ② 日本各地では自治体や研究機関が協力して、磯焼けの実態調査や予防策の検討も進められていると聞くが、浜田ではどんな取り組みや、計画をしているのか伺う。
- ③ 行政が主体となって漁業協同組合や地元の大学と協力して、藻場の再生プロジェクトを進めることを提案したいが市長のご所見を伺う。

3 介護人材の確保対策について

介護人材の確保対策について外国人人材も含め確保するよう9月の一般質問をした後、10月に浜田圏域老人施設協議会と介護報酬改定後の施設及び事業所の現状や課題について意見交換会を福祉環境委員会で実施した。特に人材確保について多くの事業所は採用コスト増加とその費用捻出に困っていて、人材確保ができないと今のサービスの継続はできないと切実に言われた。新卒採用は行えていない、中途採用を募集しても応募がない、西部に養成校がないから、実習生も来ないのが現状で、実際外国人人材へシフトする傾向があると意見が出た。

- ① 各施設長から要望があったのは、外国人人材確保への支援を一緒に考えて欲しい、居住地や移動手段、生活環境へのサポートといった初期費用が大きいので支援をお願いしたいとのことであった。9月の質問で市の答弁は、現場の声を聞いて対応策を検討したいとのことであったが、現場の声を聞いて対応策を検討したのか伺う。
- ② 令和6年10月、技能実習制度を利用して介護老人保健施設アゼーリみずすみで働く外国人8人（ミャンマー5、インドネシア1、ベトナム2）に対し、浜田市交通安全協会三隅支部から夜光反射材が贈呈されたと聞いたが、その経緯を伺う。